



福岡女学院大学
FUKUOKA JO GAKUEN UNIVERSITY
福岡女学院大学短期大学部
FUKUOKA JO GAKUEN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

地域・国際交流センターセンター（生涯学習）

《 2023年度 後期 》

「秋の章」 9/13

秋 宣孝との結婚、そして母となり…

紫式部の結婚はかなり遅い年代でした。夫となる藤原宣孝には藤原顕猷の娘との間に、新妻となる式部と同じほどになった長子の隆光がいました。一夫一婦制ではない当時では、別に珍しくもなかったのですが、宣孝も数多くの婚姻関係を結んでいました。いわば親子ほど年の離れた結婚だったのです。式部は父為時の越前守赴任とともに下向していたのですが、公務で北越までやってきた宣孝の求愛を受け入れ、単身で帰京。長徳四年（九九八）に結婚、翌年の長保元年には愛娘の賢子が誕生したようです。けれど、ふたりの夫婦生活はわずか三年足らずでした。短かった新婚生活のなかでの大ゲンカと贈答の歌を中心に、式部の妻の横顔、母の横顔を想像してみましょう。

「冬の章」 11/22

冬 プロダクション紫、始動

源氏物語の読者たちに知られていることばに、「須磨がえり」というのがあります。「須磨がえり」とは、光源氏が政争に敗れて須磨へ蟄居し、やがて赦（ゆる）されて都へもどったという「須磨帰り」なのですが、それとは別の意味がある。第12帖「須磨」・第13帖「明石」あたりまでがんばって読んでみたが、ついに挫折。しばらくしてまた読み始めたけれど、すっかり内容を忘れてしまって、チンプンカンプン。ふたたび第1帖「桐壺」にもどって読み始める、いわゆる「須磨返り」というわけです。それにしても、これほどの長大な物語が世に残ったのはなぜでしょうか。もちろん式部の文才にもよるのですが、それとともに執筆をサポートする集団（プロダクション紫）と強い「推（お）し活（かつ）」があったことに注目したいと思います。

【日 程】「秋の章」 9/13 (水)

「冬の章」 11/22 (水)

【時 間】 13:30～15:00

【講 師】 東 茂美

福岡女学院大学 名誉教授
(文学博士)

【受講料】 各2,000円

【教材費】 各100円

※別途事務手数料として1回のお申込みにつき
500円いただきます（複数お申込み可）。

〈後援：福岡市南区〉

「紫式部の生涯」 (全四回)

特別講座

二〇二四年大河ドラマの主人公を

先取りして学ぶ！

福岡女学院大学・短期大学部
地域・国際交流センター（生涯学習）
〒811-1313 福岡市南区日佐3-42-1
(駐車スペースあり)

■お問い合わせ・お申し込み

Tel:092-575-2993

Fax:092-575-6480 / E-mail: shogai@fukujo.ac.jp